

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
 北海道開拓記念館内  
 電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 平成13年度 第40回北海道博物館 大会(倶知安大会)終える

平成13年度第40回北海道博物館大会(倶知安町大会)は7月18・19の両日、博物館関係者138人、後志管内社会教育主事会会員21人の参加のもとに倶知安町で開催されました。

大会1日目は、倶知安町公民館を会場に、午前10時より開会式、総会に移り、平成12年度事業報告、同会計収支決算報告等が満場一致で承認され、さらに、平成13年度事業計画、会計収支予算案も原案通り可決されました。また、平成14年度大会開催地は札幌市(北海道開拓記念館・北海道開拓の村)に決定されました。

平成13年度からは、北海道教育委員会からの博物館大会開催補助金(20万円)が打ち切られたこともあり、財政的に窮屈になりましたが、大会開催経費、各種印刷物発行費用の見直しになどにより、従来の大会と比べても遜色がない大会が開催できました。なお、各教育局から助成を受け開催してきた、ミュージアム・マネジメント研修会に対する助成金は従来どおりの交付が予定されています。

また、今後は大会報告書は印刷せず、従来のような配布も行わないこととなります。ただ、大会の記録は保存していかなければならないため、大会の録音のテープ起こしは行いますので、各会員からの希望があった場合には、事務局よりフロッピー・ディスクもしくはプリントアウトしたものを送付することとなります。これまでは印刷費の関係上、報告、講演、シンポジウムの内容についてはダイジェストして作成してきましたが、本年からはノーカットで全文を掲載しています。

今年度は北海道博物館協会役員の改選期にあたり、別記(8頁)のとおり新たな構成となりました。

平成13年度道博協表彰式では、飯島一雄氏(標茶町)が受賞の栄を受けられました。

その後、日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏による特別報告「最近における博物館事情—日本博物館協会の活動を中心に—」をもって午前の部を終えました。

午後は、豪雨による列車運行停止にもめげず、福島県から宇都宮市へ戻り、そして羽田空港に駆けつけて倶知安町入りした、宇都宮大学助教授廣瀬隆人氏による特別講演「パワーアップ!博物館—総合的な学習の時間に応える博物館の役割」が行われ、博物館が社会に対してどのような存在であるべきか、職員はどうあるべきかなどが力説されました。

続いて本大会テーマ『総合的な学習の時間と博物館の役割』のシンポジウムに移り、倶知安町小川原脩記念美術館長 矢吹俊男氏の司会により、黒松内町ブナセンター長 高橋興世氏による「総合的な学習の時間に応える博物館の役割—博物館の視点から—」、蘭越町教育委員会生涯学習課長 河田茂氏による「総合的な学習の時間に応える博物館の役割—地域の視点から—」、廣瀬隆人氏による「学校と総合的な学習—全国の事例から—」の報告、報告をもとにした活発な意見交換、討論が行われました。

質疑での各氏の発言内容は、各館園が総合的な学習の時間に対応するため苦慮している様子がうかがえるものでした。会場からは、この時間だけでは十分な議論ができないという声が事務局に寄せられるほど、活発な論議がありました。

2日目は、午前9時30分から倶知安町および周囲の施設見学として、ニセコ町有島記念館、京極町吹き出し公園、倶知安町小川原脩記念美術館の順に各施設を見学し、2日間にわたる全日程を終了しました。

## 平成13年度ミュージアム・ マネージメント研修会から

10月25日、26日、今年度のミュージアム・マネージメント研修会が伊達市で開催された。日胆地区博物館等連絡協議会の主催で、「利用される博物館を目指して」をテーマに、第1日目の午後に現地研修、講演、研究協議、第2日目の午前中に伊達市開拓記念館、史跡入江貝塚館（虻田町）を巡るエクスカージョンの日程であった。参加者は協会関係者20名、講演会には伊達市内から40名が加わった。ここでは、第1日目の現地研修、講演を紹介してみる。

**現地研修「博物館の展示方法を考えるー北黄金貝塚情報センターにおける取り組みー」（講師：伊達市教育委員会文化財課 学芸員 青野友哉氏）**

北黄金貝塚情報センターは、伊達市が平成5年から整備事業を進め、13年6月2日にオープンした史跡北黄金貝塚公園の中核施設である。縄文前期・中期の集落遺跡である北黄金貝塚は、台地上には貝塚や住居跡、墓、低地には水場遺構が存在するという起伏のある土地に立地し、長年の調査研究成果の蓄積でも知られている遺跡である。情報センターの展示に関わった青野学芸員が、公園、情報センターの目的である「縄文時代（縄文文化）をイメージさせる」に沿って建物の設計上配慮された、大きな窓のある休憩スペースで史跡公園の特徴と情報センターの展示方法について説明された。展示方法では、解説文の簡略化、イメージ画の採用、現在の研究でも未解決の問題の展示、ハンズ・オンなどさまざまな工夫がなされた。また、入館料を無料にしたほか、噴火湾沿岸の遺跡を順次紹介する特別展示コーナー（「北黄金のとなりムラ」）や、月一度の縄文ロビー講座の開催、体験学習などリピーター確保の活動にも積極的である。縄文の森の復元を行なう「縄文スクスク森づくりの会」、公園と情報センターの解説を行なう「オコンシベの会」などボランティア組織の会員も増えている。

12月2日付の『北海道新聞』（朝刊）には、情報センターの開館期間（4月1日～11月30日）の入館者が、当初見込みの1万人を大きく上回る2万3,600人を越えたとの記事が載っていた。確固とした博物館づくりの理念が、わかりやすい展示方法や意欲的な館行事、ボランティア組織などの活動にあらわれ、入館者数に反映したものであろう。休憩スペースからは屋外の貝塚や竪穴住居のある風景が広がり、園内には来園者の想像をさまたげないように園路、あずま屋、立入禁止、禁

煙などの禁止看板をあえて設けなかった点も評価できる。

**講演「利用される博物館を目指して」**

（講師：滋賀県立琵琶湖博物館 事業部長・総括学芸員 布谷知夫氏）

「湖と人間」、「利用者のための博物館」のテーマ、運営理念で、平成8年10月に開館した琵琶湖博物館（滋賀県草津市）は、その規模と事業内容で、国内で最も注目されている地方博物館の一つである。平成3年からこの博物館の開館準備に携わり、開館後も広く博物館の事業運営に関わっている布谷氏が、1. 利用されることで成長発展する博物館をめざして、2. 利用者は何を求めているのか、3. 琵琶湖博物館の利用者対応、の内容で同博物館の運営理念と活動について話された。

お話し全体を通じてとくに参考になったのは、準備期から、地域の人びとも学芸員と一緒にさまざまなテーマの調査に参加し、利用者も組織を持つ、持たないにかかわらず調査の成果を報告したり、展示に生かしたりと、地域住民参加型の活動を重視し、定着させている点であった。「必要な情報は地域にある」、との考えから、地域にすそ野を広げながら多くの人を博物館に近づけ、利用してもらうためという。その活動は準備期に始められ、「自然とくらし」の観点から行ったタンポポ調査や水辺の遊び調査などにはそれぞれ4,000～5,000人が参加し、数千カ所を調査、その成果は展示に生かされている。開館前に約2万人が調査に参加した。開館の翌年からは地域の「フィールドレポーター」を組織し、ツバメの巣、川の貝、家庭で使う水の量、セイダカアワダチソウ、水田の生き物、水鳥などの調査に取り組んできた。掲示板に書いて送ってもらうこのシステムには120人のメンバーが参加しているが、今では利用者が積極的に参加し、博物館を使って自由に活動する方向に発展している。平成12年の秋からは、博物館を拠点に自主的な活動を行うグループ作りを学芸員が手助けする「はしかけ」（滋賀県の方言で「仲立ち人」の意）制度も発足させ、現在、体験学習のグループなど7～8のグループがある。

「利用者の視点」で運営されている琵琶湖博物館の活動の一面が理解されたと同時に、このような参加型調査活動のなかでの学芸員の具体的対応には多くの問題や悩みもあるのでは、との感も受けた。いずれにしても、北黄金貝塚情報センターと琵琶湖博物館の紹介から、現在の地方博物館はそれぞれの活動実績をもとに、より利用者の視点で運営することが求められていることを考えさせられた。

（北海道開拓記念館学芸員 丹治輝一）

## 日本動物園水族館協会 北海道ブロック園館長会議報告

道内13の動物園並びに水族館で組織される社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロックの園館長会議は、毎年2回開催されています。

平成12年度は次のとおりでしたので報告します。

### ◎平成12年度第1回園館長会議

●日 時 平成12年8月30日～31日

●会 場 広尾町ホテル東陽館会議室

●参加者 16名(全園館出席)

●議題内容

1. 各園館の入園状況について(平成12年4月～7月末まで)
2. (社)日本動物園水族館協会北海道ブロック代表理事の強化について
3. 動物保護団体への対応策について

### ◎平成12年度第2回園館長会議

●日 時 平成13年1月25日～26日

●会 場 メルパルク札幌

●参加者 18名(2水族館欠席)

●議題内容

1. 平成14年度(社)日本動物園水族館協会北海道ブロック各種会議等の開催地について
  - ①園館長会議
  - ②園館長及び事務主管者会議
  - ③春季飼育技術者研究会
  - ④秋季飼育技術者研究会
  - ⑤施設安全管理担当者会議
2. 第29回飼育技師資格認定試験について
3. 理事会提出議題及び要望事項について
4. 中央省庁の改革に伴う「文部大臣」の名称変更について  
「文部大臣」→「文部科学大臣」
5. 関東東北・北海道ブロック合同事務主任者会議の開催について  
(札幌市円山動物園 事務職員 下田 宏之)

## 北海道青少年科学館 連絡協議会の活動について

平成13年4月に帯広市児童会館で、本年度の総会と第1回館長会議を開催しました。

総会では12年度の事業報告、新年度の事業計画等を協議し、役員改選を行った後、小樽市青少年科学技術館の旭 司益さん(31年)、同じく中野 仁さん(19年)及び旭川市青少年科学館の前田正廣さん(8年)の3名を永年勤続・功労者として表彰しました。

会議後の視察は環境教育機能を備えた廃棄物処理施設の「くりりんセンター」を見学しましたが、近代的な施設と親切な説明に、参加者一同は感心して聞いていました。

また10月には、第37回職員研修会を紋別市のオホーツク流氷科学センターで開催しました。

初日の実技研修では、「〇〇熱」で氷をつくる」というテーマで3グループに分かれ、液化ガスと水だけを使って、気化熱を利用した氷づくりに挑戦しました。

その後、「オホーツク海の流氷」と題した講演が行われ、また情報交換の場では、本年度の事業の

取り組み状況の外、共通の悩みである集客増に向けて「入館者の集客作戦について」及び「各館の人気事業について」の2テーマで各館から発表があり、熱心な意見交換となりました。

最後に流氷科学センターの全天周アストロビジョンや-20度の厳寒体験室など、館内の見学を行いました。

翌日の視察研修は、流氷砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」と氷海展望塔「オホーツクタワー」を見学しました。海中にそびえる全長49mのオホーツクタワーでは、普段見ることのない海底の様子や展望ラウンジからの雄大な眺めに皆感動していました。

さらに11月には、第2回の館長会議を室蘭市青少年科学館で開催しました。会議では、10月に開催された職員研修会の結果について報告の後、上半期における各館の利用状況などの情報交換を行い。これを以て本年度の予定事業を終了しました。

(北海道青少年科学館連絡協議会

会長 木下 誠一)

## 道東3管内博物館施設等連絡協議会 「平成13年度博物館交流推進会議」を開催

釧路・根室・十勝地域の博物館施設等で構成されている道東3管内博物館施設等連絡協議会（会長：伊藤 功＝帯広百年記念館長）が主催する「平成13年度博物館交流推進会議」が、去る10月18日～19日の2日間、別海町で開催されました。

1日目は別海町図書館を会場に、開会式、基調報告、事例報告を行いました。参加者は23名。開会式は西村快副会長（根室市博物館開設準備室長）の主催者あいさつ、ご来賓の斉藤恒実別海町教育次長からごあいさつをいただき、基調講演に移りました。

基調講演は北海道大学文学部の佐々木亨氏を講師にお招きし、『博物館の事業評価－その概要と最近の動き』をテーマに、博物館に関する評価の種類、博物館評価の最近の動向、評価の目的・効果についてお話を伺いました。評価の種類では、具体的な事例としてイギリスMGCの博物館登録のための条件について、東京都が実施する博物館などに関する行政評価、北海道開拓記念館のアイヌ展示に関する来館者アンケートとその結果の分析

などについて、博物館評価の最近の動きとして、現在検討されている江戸東京博物館における評価システム導入の考え方が紹介されました、博物館側から評価を導入するまでの取り組み方と課題などについても、講師自らの経験を基に紹介されました。

続いて行われた事例報告『博物館と地域の結びつきを考える』では、別海町郷土資料館の館の活動をホームページで紹介する試み、阿寒国際ツルセンターの“着ぐるみ飼育”の紹介、帯広百年記念館の広域事業の展開など、3館の活動内容が紹介されました。

2日目は、別海町郷土資料館、同館付属の加賀家文書館、新築されたばかりの町役場、北海道指定文化財の奥行臼駅運の4施設の見学を行い、散会しました。

今回の会議は、いずれの博物館施設においても財政面での抑制や、一層の効率的運営が求められる状況の中、これらの課題に取り組むヒントが得られた有意義な内容でした。

会議に当たり、開催地の別海町さんには多大なご協力をいただきましたことに、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

（帯広百年記念館 学芸員 北沢 実）

## 石狩・後志・空知地区博物館等 連絡協議会の活動報告

6月15日、石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会総会が北海道立近代美術館において開催されました。その後行われた研修会では、北海道立近代美術館の佐藤幸宏主任学芸員による「世界四大文明－エジプト展」についての講義を受け、見学をしました。多数の彫像、道具、装飾品などが展示され、古代エジプトの美の世界が余すところなく紹介されていました。

9月28日、北海道博物館協会道央ブロック研修会「石狩管内の新施設見学会」が北海道立埋蔵文化財センター及び北海道立野幌森林公園自然ふれあい交流館で行われました。

北海道立埋蔵文化財センターは平成11年4月に開設された施設で、20年に及ぶ発掘調査によって得られた道内の埋蔵文化財に関するデータが集積されています。展示室には道内の遺跡から発掘された様々な遺物が展示・解説されていますが、それらが材質によって区分されています。この展

示法を用いると、同じ素材を用いた道具が時代と共にどのように多様化し精巧なものになっていったかを見ることができ、それと同時に文化が発達していった過程を視覚的に捉えることができます。例えば、同じ石を材料にした道具でも旧石器時代のものよりも縄文時代のものの方が用途の分化が進んでいたことがよく分かります。展示室の他、収蔵庫、書庫、研究室等を見学しましたが、遺物の分析に最新の理化学機器が使用され様々な角度からのアプローチが行われていることを知り、大変興味深く思いました。

北海道立野幌森林公園自然ふれあい交流館は平成13年4月に開館した施設で、野幌の自然、更には自然一般についての情報を収集することができます。また、自然観察の方法、マナーなどについても学ぶことができるようになっています。研修会では館内を見学する前に、野外で色の数を数えたり人工物を探したりする「ネイチャーゲーム」を行いました。普段我々は野外の風景の中で意外と多くものを見落としているということを感じさせられる非常に面白いものでした。

（夕張市石炭博物館 技師 高橋 賢一）

## 収蔵資料（煎餅焼き器）の 事業利用について

本館では本年度、収蔵資料を使った、「食べよう！昔のおやつ」講座を実施しました。

目的は日々の資料整理の中で自分が未経験の資料が多く、追体験として使い方を知りたかったことと、私が“食い意地のはった人間”であったため、数多くの中から「煎餅焼き器」を選んだという内的な理由と、参加者、特に子供達に昔家庭で作られた素朴なおやつ「せんべい」を知ってもらいあわよくば世代間の交流ができないかということをおねらいとしました。

結果として参加者は少なく、内容も体験学習から創作料理講座へと変容しました。また小学校の先生が後日授業で取上げたことで“たなぼた的”学社連携が図られました。

この行事から保存と利用について考えさせられたことには、まず『保存状態』、使用資料の保存は簡単に錆落した状態であり、利用するために多く

の作業が必要であった。次に『現状変更』、清潔にするために資料にある使用痕跡（焼け焦げや煤）をある程度除去する必要があった。次に『使用説明』、参加者の意欲をそがさずに保存の重要性を説明する難しさがあった。

最後に、これからも学芸員の知識向上やお腹を満足させるため、めげずに資料を利用した行事を実施して行こうと考えています。

（下川町ふるさと交流館 学芸員 今井 真司）



煎餅を焼く姉妹

## 平成13年度道南ブロック博物館等 施設連絡協議会の活動について —総会および研修会の報告—

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、平成13年8月16・17日に総会および研修会を知内町で開催しました。

1日目は、13時30分から32名の出席者により知内町中央公民館で総会が始まり、平成12年度に実施した「管内博物館施設等マップ」の発行などの事業報告と決算報告及び監査報告がありました。続いて平成13年度の事業計画案としてホームページ開設の検討と人材バンクの登録とデータ化についての協議後、予算案の審議が行われ承認されました。なお、次年度の開催地は、樞法華村灯台ファミリー博物館を予定しています。

総会終了後の14時30分から「博物館資料の取扱いと保存処理」というテーマで研修会が開催されました。講師は、田口尚氏（財団法人北海道埋蔵文化財センター主査）、神庭信幸氏（東京国立博物館企画部保存修復課）、成瀬正和氏（宮内庁正倉院事務所保存課室長）の3氏で、視聴覚機材やサンプル資料を使いながら、「埋蔵文化財の保存処理」や「環境保全計画のすすめ」そして「正倉院校倉

宝庫の気象」というそれぞれの立場からの講話に、参加者一同興味深く聞き入っておりました。また、今回の研修会には「博物館資料の保存環境としての木質空間の特性」の共同研究員の方々が大阪府、京都府、福島県から特別に参加していただき、貴重なご意見を聞かせていただきました。

研修会のあとは、本道最古の温泉といわれる湯ノ里の温泉旅館に場所を移し、地元産のマコガレイや山菜料理を肴に一献傾けながら参加者相互の交流を深めつつ出で湯の夜を過ごしました。

明けて2日目は、地元会員の方が早朝釣ってきたヤマベとイワナに飾られた食卓で朝食をすましてから巡見に出発しました。歴史と伝説の里ともいわれる知内町ですが、巡見では隠れキリシタンにつながるといわれている石碑や温泉の古さを物語るように堆積した湯花、祈願するとお乳に恵まれるといわれる乳母杉など10ヶ所を見学したのち郷土資料館に行き、展示物や収集された資料のクリーニングや防錆処理作業を視察して巡見を終え、とどこおりなく2日間の日程を終了しました。

（知内町郷土資料館 学芸員 高橋 豊彦）

## 北海道全域を対象にした事業の開催地として 日胆地区博物館等連絡協議会

日高・胆振の連絡協議会では、この夏から秋にかけて、地域内において北海道全域を対象とした研修事業が相次いで開催されたので、それらのホスト・ホステス役を慌ただしくこなした。

まず、8月30・31日に平取町二風谷での道博協学芸職員部会の研修会。これは沙流川歴史館レクチャーホールを主会場に行われた。歴史館と二風谷アイヌ文化博物館の全職員が総出で準備にあたり、できる限りのおもてなしをしたつもりである。「多文化の時代の博物館」と題した佐々木高明氏の基調講演があり、また日高管内各町の学芸スタッフが研究や館活動の事例をそれぞれ工夫を凝らして発表してくれた。夜は、しゃれたシティ・ホテルのような宿泊場所が近くにないので、町営温泉ふれあい館大部屋での雑魚寝となったが、「ふれあい」の密度の濃さや食事が予想外に好評だったので胸をなでおろした。「地域学のススメ日高編ー自然と文化の多様性・複雑性を活かすミュージ

アムー」という、やや凝ったテーマ設定の研修会だったが、参加者はそれぞれさまざまに入り乱れながら研鑽を深めたようであった。

10月25・26日は、伊達市でミュージアム・マネジメント研修会。道内順繰りの開催で今回は日胆の協議会が主催である。幸い会場地教委の大島直行課長をはじめとする地元スタッフとの連携でスムーズに事が進んだ。と書くと、大笑いや苦笑いする人がたくさんいるかもしれない。協議会事務局の心許ない準備作業ぶりに、ご心配をおかけした方も多し。だが、開催地の企画・依頼によってユニークでレベルの高い館運営で知られる琵琶湖博物館から、その活動全般の優れたプランナーである布谷知夫氏を招請しお話しを伺えたこと、また計画的に整備が進められ充実が図られつつある現地諸施設の見学・説明などによって、マネジメントのための豊富なアイデアを得ることができた研修会だったのではないかと思う。

大きな行事は、開催にともなう負担はあっても、地元に残る有形・無形の成果もまた貴重である。お世話くださった方々に深く感謝いたします。

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館 吉原 秀樹)

## 網走管内博物館連絡協議会 平成13年度総括研修(北見)報告

網走管内博物館連絡協議会の総括研修が北網圏北見文化センターで8月22日開催された。内容は講演がオホーツク民衆史講座代表委員の佐藤毅氏による「網走管内の強制労働について」と、同時開催中の「日本の美とこころ～桃山から近代・絢爛たる500年の粋展」のギャラリーツアーで、38名の関係者等の参加があった。

講演の佐藤氏は昭和40年代中頃から小池喜孝氏らとともに歴史掘り起こし運動に参画し、北見歴史を語る会、北見民衆史講座の中心会員として活躍。常紋トンネル等での遺骨発掘や聞き取り調査等のフィールド・ワークや講座、集会等の中心メンバーとして写真記録を担当し、当時の状況を記された。オホーツク民衆史講座の代表委員のひとりとして活躍され、「秩父事件と北海道 野に祈る」「鎖塚 常紋トンネル」などの著作で知られており、貴重な写真や図などをおりまぜての実体験による講演は、参加者を当

時の状況に引き寄せ、強制労働の実態についての埋もれた歴史を知ることができた。

ギャラリーツアーでは、北網圏北見文化センターで開催中の東京富士美術館の所蔵品である四季の風物や歴史画を描いた屏風、横山大観らの近代の日本画、葛飾北斎や歌川広重らの浮世絵版画、蒔絵や螺鈿をほどこした調度品、艶やかな色絵をほどこした陶磁器、戦国武将の威容を示す武具、近世の流麗な書跡など70点の作品を解説を受けながら鑑賞した。

(網走管内博物館連絡協議会 広報担当幹事  
紋別市立郷土博物館 業務係長 佐藤 和利)



**館 園 紹 介****札幌国際大学博物館  
「アイヌ文化資料展示室」**

札幌国際大学博物館は本年開室した「アイヌ文化資料展示室」と平成12年にすでに開室している「考古学資料展示室」の2展示室からなる大学博物館です。本学博物館は所蔵する資料を一般に公開するとともに、本学で学芸員資格を取得する学生の実習館として使用するために設置されています。展示をはじめインフォメーションなどの業務は主に実習生が行っています。

博物館は大学6号館1階の正面玄関を入り右側にあり、一般公開されています。両開きのガラスのドアを開けるとその先の一角が、展示室と学芸員準備室、そして考古学博物館実習室など博物館関係の施設となっています。

考古学資料展示室には旧石器時代から擦文時代にいたるまで発掘調査から出土した資料が展示されています。特に旧石器時代の資料は、本学吉崎昌一教授が長年調査研究を行ってきた北海道の白滝遺跡や大関遺跡の石器が展示されています。また石器の使い方がわかる模型や発掘されたアイヌ文化期（17世紀）の遺跡を復元したジオラマもあります。このジオラマ展示は実習生によって製作され、人々の活動の様子、家、樹木をはじめ、笹の葉1枚にいたるまで詳細に作られており当時の村の様子が生き活きと伝わってきます。

アイヌ文化資料展示室にはチセの大パネルがあり、まるで本物のチセが建っているように見えます。展示資料は札幌市の平野善造氏から寄贈された平野コレクションが中心です。このコレクションは個人所蔵の未公開資料であったため本学博物館ではじめて公開されました。およそ80点ほどの資料は保存状態もよく、大切に保管されてきたことがわかります。なかでもアイヌ民族の衣類や首飾りなどは大変貴重な資料です。

展示室ではこのような貴重な衣類資料を保護するために特別な配慮を行いました。通常展示ケース内は消灯してあり見学者は見る時に照明をつけ、照明はタイマーで自動的に切れるようになっています。また収蔵型展示として収蔵してある衣類資料も見ることができます。さらに警備保障会社に直結するセキュリティーシステムも設置し万全の策をとっています。

本学博物館実習はこれら貴重な資料を使用して行うため、実習生は本物を取り扱う緊張感と学芸員としての責任の重さを体得することができます。

開館日時：午前10時から午後6時まで

閉館日：日曜、祭日、その他大学の学事暦により、休暇中や試験中等大学の事情で閉館いたします。ご来館の節はお問い合わせ下さい。

札幌国際大学ホームページ

<http://www.siu.ac.jp>

(札幌国際大学 教授 深澤百合子)



## 北海道博物館協会役員改選される

総会において選出・承認された後、緊急役員会が行われ、会長、副会長、理事、監事が下記のように決まりました。

**会長** 吉田和夫（北海道開拓記念館長）

**副会長** 毛利正彦（北海道立近代美術館副館長）、吉田国吉（苫小牧市博物館）、大内格之（札幌市円山動物園長）、伊藤 功（帯広百年記念館長）

**理事** 小野塚正衛（博物館網走監獄館長）、佐藤一夫（〔個〕苫小牧市勇武津記念館長）、林 久司（名寄市北国博物館長）、和田英昭（網走市立博物館長）、七田龍夫（釧路市立博物館長）、澤口喜一（市立函館博物館長）、矢吹俊男（北海道博物館協会学芸職員部会副会長）、飯田富洋（江差町郷土資料館長）、川辺百樹（北海道博物館協会学芸職員部会副会長）、高橋正勝（江別市郷土資料館長）、鶴丸俊明（札幌学院大学助教授）、中川 元（斜里町立知床博物館長）、赤松守雄（北海道開拓記念館学芸部長）、木下誠一（北海道立オホーツク流水科学センター所長）、福土廣志（北海道博物館協会学芸職員部会長）、木村直樹（アイヌ民族博物館長）、山脇脩平（門別町図書館郷土資料館長）、土屋周三（小樽市博物館長）

**監事** 大島 隆（北海道開拓の村専務理事）、鈴木紘一（旭川市博物館長）

なお、8月30日に平取町で開催された学芸職員部会総会において役員改選が行われ、会長 矢吹俊男、副会長 長谷部一弘（市立函館博物館）、澤村 寛（足寄動物化石博物館）となり、3氏が部会選出の協会理事となりました。

## 平成14年度北海道博物館協会表彰について

北海道博物館協会表彰規定に基づき、平成14年度表彰者の申請を受け付けます。「表彰規定・細則」を参照の上申請ください。平成14年2月5日（火）までに送付願います。

## 第40回大会報告書について

大会記録を要望の会員は事務局まで、電話、Fax、郵便、電子メールで事務局までお申し出ください。大会記録の配布はコピー、3.5インチフロッピーディスクで行います。なお、その際にはどのような形態を希望するかをお申し出ください。また、電子メールで要望がありました場合には、寄せられましたメールアドレスに、添付ファイルにて送付いたします。

アドレス kaitaku.soshugaku@pref.hokkaido.jp

## 館・園の主な展覧会と普及事業

**石狩** ●芸術の森美術館（011-591-0090）1.5～3.31 「収蔵品企画展」

●北海道立文学館（011-511-7655）1.12～1.27 ファミリー文学館

●北海道立近代美術館（011-644-6881）1.22～1.27 「A★MUSE★LAND」 2002 2.1～3.21 「砂田友治展」

**渡島** ●市立函館博物館（0138-23-5480）1.12 科学ミニ講座「パズルで遊ぼう」 2.23「生き物の冬越しを観察してみよう」

●北海道立函館美術館（0138-56-6311）1.19～3.24 美術鑑賞入門

**檜山** ●江差町郷土資料館（01395-2-1047）2.3、10、17 考古学講座

**後志** ●小樽市青少年科学技術館（0134-22-0031）1.10～1.13 冬休みのイベント

●黒松内町プナセンター（0136-72-4411）1.27、2.17、3.17 プナセンター講座

**空知** ●砂川市郷土資料室（0125-52-2339）2.1～2.24 阿部尤三氏コレクション展「面」

●美唄市郷土史料室（01266-2-1110）2.2～2.17 「ドール展」 2.23～3.17 「宮西博写真展」

**上川** ●旭川市博物館（0166-69-2004）2月企画展「黒曜石の不思議」 3.2～3.31 企画展「見本林の魅力を探る」

●旭川市青少年科学館（0166-22-4171）1.12～1.13 2002年「科学探検広場」

●中原悌二郎記念旭川彫刻美術館（0166-55-1413）2.2～3.24 「収蔵品展」

**網走** ●北海道立オホーツク流水科学センター（01582-3-5400）2.2～3.10 企画展「地図にみる蝦夷地、北海道、紋別」

●北海道立北方民族博物館（0152-45-3888）2.9 講座「映像で見る北方の子育てと遊び」

2.16 講座「北の古代世界—擦文文化の頃—」

3.23 講座「撒文文化とオホーツク文化」

●美幌博物館（01572-2-2160）3.17～5.26 企画展「(仮)イラクサ展」

**十勝** ●北海道立帯広美術館（0155-22-6963）12.21～3.27 「美術への扉—コレクション十年十色—」

**釧路** ●釧路市青少年科学館（0154-41-6225）4.23～3.31 春休み特別事業 わくわくランド

●北海道立釧路芸術館（0154-23-2381）2.8～3.31 「現代写真点描」